


「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	美濃加茂市		学校名	伊深小学校		
校長名	宮西 祐治		対象学年	全校	人数	81人
項目	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践				
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践				
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践				
学校の教育目標	明るく 笑顔あふれる 伊深っ子 ～学び合う・思いやる・やりぬく～					
活動のねらい	伊深の地域・自然・文化・人々に関わる体系的な学習を通して、ふるさとについて6年間を通して段階的に知り、良さや課題を理解して愛着や誇りをもつとともに、よりよく生きようとする態度を育てる。					
<h2>1 ふるさと教育の重点</h2> <p>本校は、総合的な学習の時間に「ふるさと学習」として、伊深町の自然・歴史・文化等について、発達段階に応じて発展的に学んでいる。今年、創立150年を迎え、学校や地域の歩みに着目して、その魅力を理解する契機である。そこで、ふるさと伊深について「知る」「関わる」「発信する」3つの活動を進め、「地域についてよく知ること」「地域の自然・歴史・文化・人々と直接かかわる体験をすること」を通して、伊深町の魅力や課題に触れ、「伊深町について学んだことや自分の考えを発信すること」を意図的に仕組み、地域への愛着や誇りを持ち、よりよく生きようとする態度を育てる学習を展開した。</p> <h2>2 関係機関との連携による地域講師や地域素材の活用</h2> <h3>(1) 4年生 清流の国ぎふ環境教育推進事業の活用「環境を考える」</h3> <p>伊深町は、自然豊かな土地である。子どもたちが、その良さを知るとともに、地域の方々の自然保全への思いに触れる学習を進めている。4年生は「伊深の環境を考える」をテーマに、清流の国ぎふ環境教育推進事業から環境教育推進委員の小林由紀子先生、外部講師の安藤志郎先生、市の環境課職員等の人材を活用して、専門家から環境調査や環境保全の方法を学んだ。</p>  <p>はじめに、地域に流れる大洞川と川浦川について調査し、カワゲラやカワニナ、ヘビトンボ、ホトケドジョウ等の生き物を見付け、改めて伊深町の川がきれいであることを知った。その後、どのようにして守っていったらよいかを考え、SDGsの「12 つくる責任つかう責任」「14 海の豊かさを守ろう」の観点から海洋プラスチックについて学び、川はやがて海につながっていくため、身近な川の環境保全が重要なことを学んだ。そして、学習の成果として、環境保全のためにできることについてリーフレットにまとめて、地域に広く発信したり、さらに学習の場を広げ、「河川環境楽園」で調査して、自分たちと川、水生生物が共存していくうえで何が大切なのかを考えたりした。</p> <h3>(2) 全校 外部資源の活用「伊深町の自然の魅力を深く学ぶ」</h3> <p>岐阜大学地域科学部の向井貴彦先生を講師に招き、『ふるさと伊深の「いきものたち」～昔と今、そしてこれからどうなる？～』と題して、伊深町に生息する生き物の種類や生態、変化について詳しく学んだ。向井先生は、美濃加茂市自然史研究会にも所属し、伊深町内の川で水生生物の調査・研究をされている。児童は、この地域にしかない固有種や、保護しないといなくなってしまう絶滅危惧種が存在を知るとともに、人により生物が運ばれることで生態系が変わってしまうことも理解した。また、温暖化による外来種の定着のために、生態系が変化していることを学んだ。講話を通して、自然豊かな伊深町の魅力を改めて知り、環境保全の意識を高めることができた。</p>						

3 各教科等との関連を図った横断的な学習の実践

(1) 3年生 社会科 地域学習との関わり「地域の特徴を知り、良さを生かした散歩コースをつくる」

伊深町には、地域の人々の生活に密着した「天王用水」が流れている。また、町の偉人の逸話に由来する地名が残っている。そこで、社会科の地域学習との関連を図って地域の史跡や文化に触れる学習を進めた。初めに、「天王用水」について、地域の方から歴史を学び、次に用水に沿って散策も体験した。児童は「田んぼだけでなく、野菜を洗ったり、お風呂のお湯にしたりしていたことに驚いた」「130年以上昔に作られたものが、今も大切にされているので自分たちも伝えたい」と学習を振り返った。正眼寺については、偉人「えげんさん」の人柄や教え、正眼寺の歴史、僧侶の生活について学び、座禅も体験した。体験後には、『厳しい修行を積んで、伊深の人々のために尽くした。地域で「えげんさん」について語り継がれている理由がよく分かった』と感想をもち、地域についての理解を深めることができた。天王用水や地域の自然の良さに多くの人が親しめるようにしたいという願いから、いくつか散策ルートを考えて、12月の学習発表会で地域の人にコースやその魅力を発信した。

(2) 6年生 社会科 歴史学習との関わり「150年の歴史を学び、150年史をつくる」

6年生は、社会科の歴史学習と関わらせ、「伊深の歴史」をテーマに学習を進めた。初めに『伊深小学校百年史』や『伊深の歴史年表』などの資料から、伊深小学校の百年の歴史について調べた。その中で、年代によって教育活動が異なる点に気づき、「年代による教育活動の違い」に課題意識をもった。そこで、町づくり協議会の方と交流する場を設けて、年代別に異なる活動や現在まで存続した活動があることなどを知り、今後も歴史ある活動を大切にしていきたいという願いをもった。さらに、50年程前までは校歌として歌われた歌(旧校歌)と現在の校歌が異なることを知り、「昔と現在の校歌の違い」に関心をもった。そして、町づくり協議会の方々と、旧校歌と現校歌を交流する場を設け、旧校歌を教えていただいたり、新校歌を披露したりした。また、旧校歌と現校歌の歌詞に共通する言葉から、町や伊深小学校への理解を深めた。また、町づくり協議会の方々の伊深町を想う心に触れることができた。講話や校歌交流の体験をもとに、児童は「150年史リーフレット」を作成して、学習発表会で他学年の児童・保護者・地域の方々に向け、成果を発表した。



4 保育園との交流 5年生「伊深町の郷土料理を知り、学んだ工夫を生かしたレシピをつくる」

5年生は、町づくり協議会の協力を得て、米作りを体験した。そこで、家庭科と総合的な学習の時間を関連付けて教育課程を編成した。町内で活動されている「ごはん料理研究会」の方を講師に招き、地域で伝わる季節ごとの郷土料理、食にまつわる風習、健康的な食事にするための工夫を学んだ。また、講師の先生から手ほどきを受けて、だんご汁・おはぎ・けんちん汁を調理した。作り方を学びながら、収穫を祝うために十五夜の日にだんご汁を食べることや、おはぎは萩の花に似ているから、おはぎという名前になった事、けんちん汁にお米のとぎ汁を使うことで、とろみが付き冷めにくくなるという工夫を知った。学んだことを発信したいという願いから、隣接する保育園に伺い、園児たちに学んだことを発表する活動を行った。このような活動を通して、地域の行事食の工夫や知恵を知り、この食文化を発信して広めるとともに、町への誇りと愛情をもつことができた。



5 児童の変容と今後の課題

ふるさと学習を通して、地域についていろいろな視点からとらえ、自然や風物、歴史や人々に魅力や良さを見出すことができた。また、伊深町を大切に思い、町づくりのために尽力する方々の存在や先人の知恵等を知ることができた。本校は毎年、「ふるさと伊深の里学習発表会」として、各学年の学びを学校全体で共有したり、ケーブルテレビ等で地域にも発信したりしている。これらを通して、保護者や地域住民にも町の歴史や資源、魅力を広く伝え、地域全体でふるさとへの誇りと愛着を感じる機会となっている。さらに、本校は小規模特認校制度の設置された学校であり、市内のいろいろな地域から通う児童が全校の4分の1を占めている。それらの児童も、「ふるさと学習」への興味関心が高く、楽しんで体験したり学んだりしており、全校児童の一人一人が、自分の生活する環境に愛着を感じる心を育むことにつながっていると見える。令和6年は、開校150年の区切りを終えて歩みだす年となる。これまでの学習の成果と課題からふるさと学習を推進していきたい。